

2℃の気温上昇で 日本列島が南へ300km移動！

6月は環境月間です。地球の温暖化について身近な問題として考えてみませんか？

詳細 環境保全課 ☎36 8801

温暖化から地球を守ろう！



図3 苫小牧市内から排出される温室効果ガスの業種別割合(%)<2003年度>

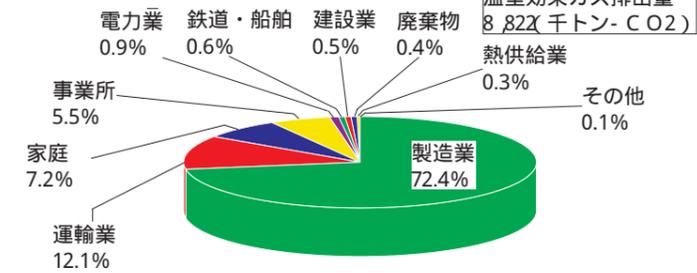
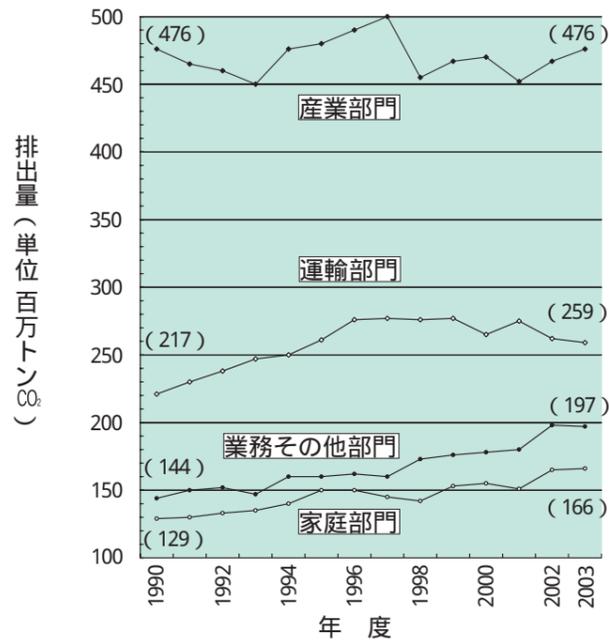


図4 日本の温室効果ガス排出量の推移 2003年度排出量 13億3,600万トン(環境省速報値)



環境家計簿の請求は、環境保全課・環境計画担当まで ☎36 801

その内容は、無料で配布している環境家計簿「CO₂CO₂CO₂」(CO₂節約大作戦!)にも載っていますので、ぜひ実践にご協力ください。

今後シリーズで、私たちが普段の生活の中で取り組める、地球温暖化防止に向けた行動をお知らせする予定です。

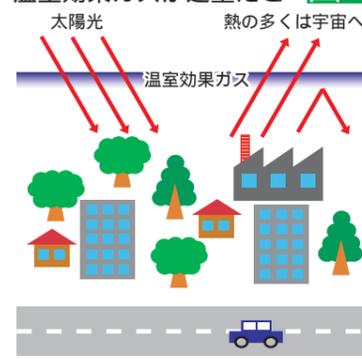
排出も増加すると見込まれます。このため、私たちは家電品の使い方の工夫、ごみの分別・減量、車のアイドリングストップ、自転車での買い物や通勤など、ライフスタイルを見直し、温室効果ガスの排出抑制などに取り組むことが重要です。

温室効果ガスはどれくらい出ているの？

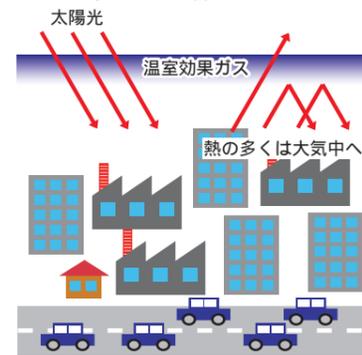
日本の03年度の温室効果ガスの総排出量は、約13億トンにもなります。00年の日本の世界全体に占める排出量は約5%で、これはアメリカ、EU諸国などに次いで世界で5番目の排出量となっています。

市では、温暖化防止対策の資料とするため、昨年度、市内の約800の事業所と家庭を対象にアンケートなどで、温室効果ガスの排出実態調査を行いました。その結果、03年度では約882万

図1 温室効果ガスが適量だと



温室効果ガスが増えると



今後の市では、国の「京都議定書目標達成計画」や国内の排出傾向および今回の市の排出実態などを踏まえ、温暖化対策を推進していくうえで必要な部門別の対策を盛り込んだ「地域推進計画」を策定する予定です。

市役所内では02年度に、5年間で温室効果ガスの5%削減を目標とする「地球温暖化防止実行計画」を策定し、電気や燃料などの節減による温暖化対策に取り組んでいます。

03年度の排出量は、市内全体の約0.8%にあたる約7万トンで、01年度の基準年度に比べ、

私たちが何をしなければならぬの？

1・2%増加しました。内訳では、50・3%が家庭ごみなどの焼却、25・2%が燃料の消費、19・7%が電気の使用などとなっています。

図2



このまま推移すると今後100年間でさらに気温が2℃上昇するといわれています。

ちなみに、気温が2℃上昇すると日本列島が南へ300km移動するのと同じことになります。

気温の上昇に伴って、水や大気の循環などの気象メカニズムが変化し、洪水や干ばつなどの多発、極地の氷の解け出しによる陸地の水没など、地球温暖化の影響が世界各地で発生するようになりました(図2)。今後はさらに生態系や食糧生産などへの深刻な問題に発展することが予想されています。

このような危機的状況を打開するために、世界の国々が一緒に取り組むための条約「京都議定書」が今年2月に発効しました。

これによって、日本は90年比で、10年までに温室効果ガスを6%削減することが義務付けられました。目標が達成できなかった場合は、ペナルティが課されることとなります。

地球温暖化って何だろっ？

18世紀の産業革命以降、人々の産業・経済活動が活発になり、石炭や石油などのいわゆる化石燃料の燃焼に伴う二酸化炭素(CO₂)などの排出量が急激に増加しました。これにより地球を取り巻いている大気に蓄えらる熱がだんだん増加して、過去100年間で約0.6℃気温が上昇しました。この現象を「地球温暖化(図1)」といい、二酸化炭素やメタン、フロンなどの地球温暖化の原因となる物質を「温室効果ガス」といいます。

猛暑、台風の上陸数の増加、大雨…。私たちの住む日本では、気象観測史上記録的な出来事が最近多く聞かれます。世界的な異常気象により、日常の生活に欠かせない食料などの価格高騰などの影響が生じたことは記憶に新しいところですが、こうした現象は地球温暖化が原因といわれています。これらの問題に対して私たちに何かできることは？ 今回の特集では、地球の温暖化防止の取り組みの重要性と、この解決の糸口となる苫小牧市環境基本計画を紹介します。